

第7章 「まゆかへ」

副読本 52-53ページ

年 組 番 名前

1 今日の学習で思ったことや考えたことを書きましょう。

Blank lines for writing answers to the prompt.

まゆかへ

まゆかは とてもやさしかったね
 小さい子のめんどうを見たり
 遊んであげたりするのが好きだったよね
 おばあさんと買い物に行ったときには
 お菓子は必ず2個買って来て
 「これはお兄ちゃんのね。」
 って ほくに1つくれたよね
 まゆかは がんばりやさんで
 負けずらいだったよね
 幼稚園のころ 鼓笛隊のキーボード練習を
 家で何回も何回もしていたね
 1年生のときのマラソン大会は
 1位をとったね
 2年生のときは3位だったけれど
 まゆかがにこにこでメダルをもらったとき
 ほくは とてもうれしかったよ
 学校の図書カードには
 借りた本の名前がいっぱい書いてあって
 こんなに読んでいたんだと思って
 びっくりしたよ

ぼくとまゆかはいつもいっしょだったね
 遊んでいて
 まゆかがふざけて投げたベットのボールが
 ほくのおでこに当たってしまったことがあった
 よね
 ほくのおでこの血を見て
 まゆかが目にいっぱい涙をためて
 「だいじょうぶ。」
 って 心配してくれたね
 「だいじょうぶだよ。」
 って言っても
 何回も
 「ごめんね。」
 って 言っていたね
 いつまでもいつまでも
 ほくのそばをはなれなかったね
 今でも おでこに傷が残っているよ
 ほくのおでこの傷を
 まゆかがちっちゃい手でさわって
 ふざけることも
 けんかをすることも
 もうできないんだね
 とてもさびしいよ

まゆかはいつも
 「兄ちゃん、兄ちゃん。」
 と ほくをよんでいたよね
 まゆかの
 「兄ちゃん」と呼ぶ声を
 もう一度聞きたいよ
 7月9日は まゆかの誕生日だから
 みんなで誕生会をしたんだ
 まゆかの好きなチョコレートケーキだよ
 まゆかもケーキ食べてくれたかな
 まゆかは ほくの夢の中に出て来てくれたね
 「兄ちゃん 前のことは考えなくて
 明日のことを考えたほうがいいよ。」
 って
 何だかわずかしいことを言っていたよね
 はっきりと覚えているんだ
 これからも
 夢の中でもいいから遊びに来てね
 いつでもいいから遊びに来てね
 ほくはいつまでも
 まゆかの兄ちゃんだからね

ぼくは野球をやっているから応援してね
 まゆかのやりたかったこと
 まゆかの分もがんばっていきからね
 空から見てもね
 ありがとう
 まゆか
 ありがとう

(作文専攻 60号 特別編「あの日の子どもたち」より)

